

**【授業の到達目標と概要】**

保健社会学とは、健康の保持増進を対象とした社会学である。ここでの社会学とは、人と人とのつながり・人間関係について明らかにしようとするものである。健康の要因として、食事や運動もさることながら、人と人との支えあいや絆の影響がこれまで思われていた以上に大きいことがわかってきている。人とのつながりは、人々が健康問題に対して情報を収集し、理解し、評価して活用する力であるヘルスリテラシーの形成や向上に大きく影響を及ぼしている。ヘルスリテラシーとは自己実現のために、自分が持っている潜在的な能力を十分に生かせるように情報を得て適切に意思決定して健康でいられる能力でもあり、それをどのように測定し、向上させるかについて学習する。

**【授業計画】**

- ①② ヘルスリテラシーとは何か
- ③④ ヘルスケアの現場でのヘルスリテラシーに配慮したコミュニケーション
- ⑤⑥ 健康教育とヘルスプロモーションにおけるヘルスリテラシー
- ⑦⑧ 批判的ヘルスリテラシーと健康の社会的決定要因
- ⑨⑩ ヘルスリテラシーの測定と要因、健康との関連
- ⑪⑫ 世界におけるヘルスリテラシーへの取り組み
- ⑬⑭ 市民・患者中心の意思決定支援

ただし、履修者の関心によって、あるテーマを中心的に扱ったり、調査や統計解析の方法の講義とディスカッションを中心としたりするなど、項目や時間配分を変更する。

**【授業外学習】**

授業時に提示する資料や参考書の講読を行うこと。

**【成績評価の方法・基準】**

授業への参加態度とレポート（レポートにはコメントをフィードバックする）

**【教科書】**

中山和弘：これからのヘルスリテラシー 健康を決める力. 講談社.

**【参考書】**

- ・福田洋・江口泰正編：ヘルスリテラシー—健康教育の新しいキーワード. 大修館書店
- ・中山和弘：看護学のための多変量解析入門. 医学書院.

**【教材】**

特になし

**【備考】**

特になし